

「講演」

画像の効用

講師： 今西 祐一郎 氏

国文学研究資料館 館長

『国書総目録』の出現は書誌研究、文献研究を大きく進歩させた。その後、国文学研究資料館による『古典籍総合目録』の作成、さらに両目録を併せたデータベース、「日本古典籍総合目録データベース」の完成と公開は、その利便性を飛躍的に向上させた。

しかし、そこから得られる情報は決して万全ではない。たとえば、その本には挿絵があるのかどうか、平仮名で書かれているのか片仮名で書かれているのか、といった情報は欠けている。それらを補うのは、画像データベースである。

実例に即しながら、画像の効用について考える。

【紹介】

海外古典籍 デジタルアーカイブ プロジェクト

講師： 赤間 亮

立命館大学大学院文学研究科 教授

立命館大学アート・リサーチセンターでは、欧米の日本書籍コレクションのデジタル化を進めている。

本年度までに、プラハ国立美術館、ヴェネチア東洋美術館、キオッソーネ東洋美術館、サレジンアン大学マレガ文庫、フリーア美術館（プロベラーコレクション）、大英博物館などの全作品・全頁デジタル化が完了し、引き続き、大規模コレクションのデジタル化が予定されている。

どのような方法により、短期間で次々と大規模コレクションのデジタル化を仕上げるのが可能となったのか、その手法を紹介する。

【日時】 2013年 11月29日[金]

18:00-20:00

【会場】 立命館 大学衣笠キャンパス
アート・リサーチセンター 2F
多目的ルーム



入場無料

予約不要

* 立命館大学大学院 文学研究科 行動文化情報学専攻 文化情報学専修は2014年度設置予定です。